

トイレの男女問題

大津 隆文

先日近所のスーパーでトイレに寄った。出る時掃除人がいたので「ありがとうございます」と挨拶した。すると「誰もいなくてよかったですね」「えっ?」「キヤーツと大声上げられましたよ」。何と女性用を使っていたのだ。男女兼用式で不便とは思ったが本当にウカツだった。恥ずかしい。

昔のトイレには兼用式がかなりあったが、近年はほとんどで男女を厳格に分けている。いいことだが気になるのは、男女間のスペースの適切な配分。通常は同規模のスペースが割り当てられているが、それでは女性が圧倒的に不利ではなからうか。

以前家内とバスツアーに参加した時、トイレ休憩になると女性は先頭争いが大変だった。劇場などの休憩時間も同様だ。建築主や設計士は実情を知らないのだろうかと思っていたが、最近では女性用スペースの方を大きくする所も出てきている。

男女別トイレの混雑度を全く平等にする、というのは利用者数変動するので容易ではない(男性も朝の通勤時には「大」に列ができる)。いっそのこと男女別を廃止してはどうだろうか。現に飛行機ではすべて男女兼用で違和感なく使っている。多機能トイレ(誰でもトイレ)もそつだ。

しかしこれには強い抵抗感を覚える人が少なくないであろう。性犯罪の発生をどう抑止するのも大きな課題である(外国の公衆トイレではドアの下が大きく空いていて外から様子が分かる)。全面的な導入は無理だが、誰でもトイレのような形が増えていきそうな気がする。

その背景は最近のLGBT問題に見られる性意識の多様化である。数年前高校のクラス会へある同級生(防衛大学校卒業生!)が名古屋から女装で出席し驚いたことがあった。質問が集中したが、聞きもらした一つが外出時のトイレ利用だった。

これからの世の中、男女をきっちり分けることに抵抗を覚える人が増えていくであろう。トイレも第三のトイレが増えていく可能性があるのではないか。

自分の恥ずかしいミスからこんなことを考えた。